

びわ湖大津歴史百科

第5回ワークショップ

知られざる

三井寺の土人形

講師：津田 徹英（東京文化財研究所 文化財情報資料部 部長）



三番叟

ワークショップ体験

土人形の素朴な味わいを実感して頂くため、素焼きのかわらけ（土器）に童子の顔を描く体験があります。（当日15時00分頃より）



布袋



猫抱き童子



饅頭喰い



西行



馬乗り童子

参加費無料

2017年 9月 3日（日）

13:30 開始（受付開始 13 時）

会場：三井寺事務所 2 階

主催：大津市浜大津・石山地区文化遺産活用実行委員会

後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、大津市、大津市教育委員会（予定）

平成 29 年度文化庁文化遺産総合活用推進事業
（地域文化遺産活性化事業）



講演概要：「知られざる三井寺の土人形」

三井寺（園城寺）の護法善神堂の堂内に多くの土人形が納置されていることが知られるようになったのは十年くらい前のことである。それらはわが子の健やかな成長を願って、子供を守ってくれる護法善神堂の鬼子母神に奉納されたと考えるのが自然であろう。そのような習慣がいつごろから行われていたかは記録もなく不明であるが、納められた人形から判断すると近代に入ってからのものである。それらは伏見人形の系統を引くものと考えられるが、どのようなルートで入手され、奉納に至ったか明確でない。ただし、さまざまな人形が残るところをみると、それぞれの親たちが土人形を求めて窯元まで出向いたとみるよりは、受容があって大津町で入手できる環境が整っていたように思われる。ちなみに、子供の成長を願って神仏に人形を納める習慣は、滋賀県下では、大津市内の宇佐八幡宮（むし八幡）の土鳩、草津・守山の猩々（張子人形）、安土・轟地蔵堂の千駄地蔵（土人形）などがあるが、今となってはその存在や風習を知る人は多くない。人知れず護法善神堂に伝わった土人形の種類・造形を眺めながら、神仏に奉納される人形のありようについて考えてみたい。

■講師プロフィール



津田徹英（つだ てつえい）

1963年、近江八幡市に生まれる。

慶應義塾大学大学院博士後期課程単位取得満期退学。

神奈川県立金沢文庫学芸員を経て、現在、独立行政法人文化財機構 東京文化財研究所 文化財情報資料部長。

2015年1月、『平安密教彫刻論』（のちに中央公論美術出版より刊行）により博士（美学）の学位を上記大学より受ける。

専門は日本彫刻史（仏像・神像研究）であるが、密教図像、南北朝絵巻の詞書の書風研究など多岐にわたる。また、土人形のコレクターとしても知られる。

■当日のスケジュール

講演：13:30～15:00（受付開始13:00）
体験：15:00～
終了予定：16:00
場所：三井寺事務所2階
定員：50名

■会場へのアクセス

- 京阪 三井寺駅（石坂線）より徒歩 約6分
- JR 大津京駅（湖西線）より徒歩 約20分
- JR 大津駅（琵琶湖線）より大津駅京阪バス三井寺停下車すぐ
- 三井寺駐車場より徒歩約2分

■会場マップ



お申込み・お問い合わせ

びわ湖大津歴史百科のホームページ
www.rekishihyakka.jp の
申込フォームにてお申込みください。

メール：info@rekishihyakka.jp

TEL：077-522-2238 / FAX：077-522-2221

次回予告

びわ湖大津歴史百科 第6回ワークショップ

「石山寺のお香祭り」

講師：山田松香 木店 藤原康教

日時：2017年10月8日（日）10:30～

詳しくはホームページをご覧ください www.rekishihyakka.jp